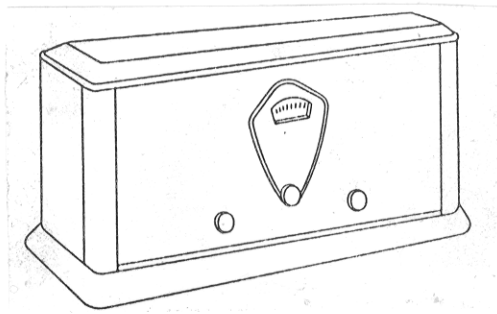
34. 電気ラヂオ（エリミネーター）

昭和４年(1929)頃のこと、エリミネーターラヂオが東京電気奨励館（後の東京都公害研究所）等の後ろ盾もあって漸く普及の途につきました。

今となっては「エリミネーター」という言葉自体が死語になっていますが、何をエリミネートするかと申しますと電池でありまして、電源を電灯線から取る現在では普通の AC ラヂオのことです。特にＢ電池が不要になったのが画期的でしたので「Ｂエリミネーター」の呼称があります。



昭和５年ラヂオ展覧会１等入賞「コンドル」号

当時ラヂオに限らず家電機器は当該公共機関や新聞・雑誌社の募集する懸賞を通じて進歩した例が数多く見られます。エリミネーターラヂオも東京電気奨励館の懸賞で、その時の１等に輝きましたのは、神田富久商会（後の富久無線(株)の従業員で賞金は1,000円でした。その作品が右上に掲げましたスケッチです。

UY227 はまさにこの検波のニーズに応えて世に出されたもので、エリミネーターは家庭へのラヂオの普及に大きく貢献しました。前述の UX227 (p.14) をご参照下さい。UY227 はその後 UY 27A へと進化しその後 四極管 UY224, UY225 などの出現で性能は向上しましたが 二段目の UX26B や、終段の UY 47B など直熱管が取り残された状態になりましたので、スイッチを入れますと先ずブーンとハムが出て不評でした。

下の図の東京電気(現東芝)の UX226 と UY227 の広告、「私のラヂオ：私のラヂオは電気で鳴るの。サイモトロンが光ってて」は何か心温まるものを感じます。このタイプのエリミネーターは終戦まで続き、戦後進駐軍の政策でスーパーヘテロダインが急速に普及しました。